

問 神楽沢橋下の 源泉について活用を

答 調査研究は検討課題とする

問 神楽沢橋下の源泉は村の所有となつていますが、中央地区の区画整理以前は地元住民の先祖が湯屋を経営し、皮膚病の湯、通称「草っぱの湯」と呼んでいた。我々は団塊の世代であり、高齢化の波をまともに受けることから、この源泉にどんな利用方法があるのか。村として活用方法を検討していく必要があるのではないか。



神楽沢橋下の源泉

答 村内にあった温泉は、その状態が確認できていないことや現在の所有者の意向などもあることから、調査・研究に当たっては、今後の検討課題としたい。



新政とうかい
ますい ふみお 議員
舂井 文夫

は難しいが、過去に利用していた場所として、どのような形で伝えることができるのかを検討したい。

問 以前に村内にあった温泉施設として、その源泉があったということは村の宝である。この宝をどのように活用するか、村長の考えを伺う。

問 広域避難計画の 実効性の定義は

答 実際に現れる効力や効果と認識

問 実効性という言葉は、計画の完成度を判定する上で重要なキーワードとなるが、最近では「未知のリスクを担保し得る有効性」のような意味合いで使われている。一般的な国語の辞書に記載されている意味は、「実際の効力や効果」で、未来は意図されておらず、計画策定前に不足があるようなニュアンスに違和感がある。

答 本来、実効性の確認は、計画策定後に逐次見直ししながら、磨き上げていくものと考えますが、広域避難計画の策



新政とうかい
みかみ おさむ 議員
三上 修



試験研究炉等の避難訓練
(3月21日那珂市総合公園)

定における「実効性」という言葉の定義は、どのように定められ解釈されているのか。

答 広域避難計画における「実効性」については、原子力災害対策指針等でキーワードとして用いられており、訓練に関する項目では「そもそも防災とは、新たに得られた知見や把握できた実態等を踏まえ、実効性を向上すべく不断の見直しを行うべきもの」といった形で使用されている。村ではこれら上位計画と解釈が異なるないよう同様に使用している。